医療施設における療養環境の安全性に関する研究

国立保健医療科学院・施設科学部長
筧　淳夫

医療施設における療養環境の
安全性に関する研究

国立保健医療科学院
施設科学部
筧淳夫

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）
「医療施設における療養環境の安全性に関する研究」
（研究代表者：三宅祥三・武蔵野赤十字病院院長）

■研究の目的

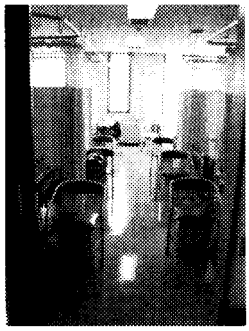
転倒・転落が予想される患者を対象として，転倒・転落防止のための物的対策を具体的に設定するためのチェックシートを作成することを目的とする。

■調査概要

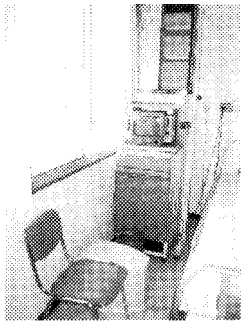
- 期間：2003年10月～12月の3ヶ月間
- 対象：都内の5つの急性期病院、計14病棟
- 事例：118事例を収集
  （男性25件、女性93件）（平均年齢71.6才）
  - ベッドからの転落
  - ベッドまわりでの転倒
  - トイレでの転倒
  - 廊下歩行中の転倒

ベッドサイド歩行中の転倒

VIEW1

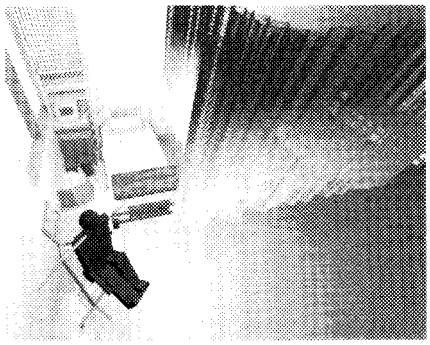


VIEW2

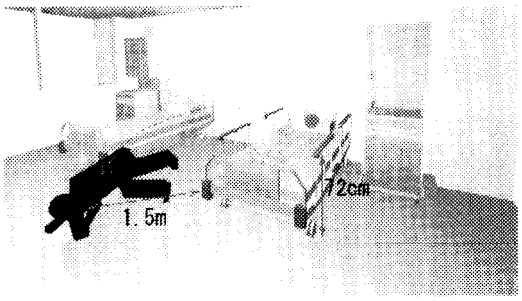


状況解説

トイレに行く時は、必ずナースコールを押すよう指導していたが、一人でトイレに行こうとしてベッドから起き上がり、カーテンを開けたところでクラッとして尻餅をついた。午前3:00で、部屋は暗く点滴スタンドをひきながらオーバーテーブルやポータブルトイレをよけ、カーテンを開けた。8人部屋のため点滴スタンドがまっすぐ通らない状況であった。筋力の低下が目立ち、支えがないと自力で歩行は難しい状態だった。



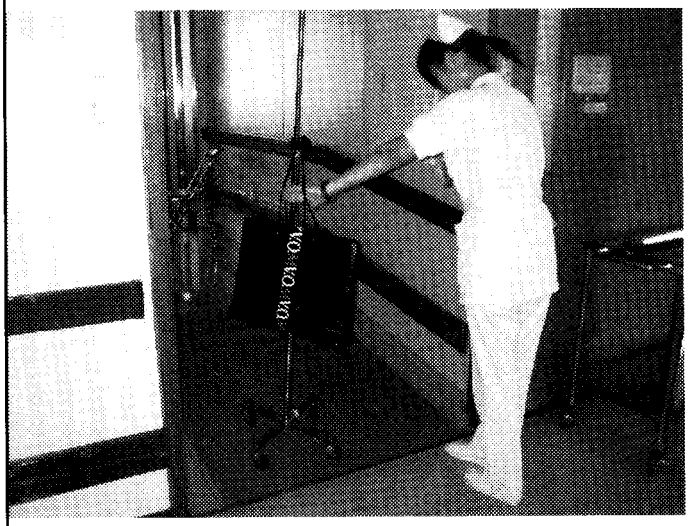
せん妄のある患者のベッドからの転落事例

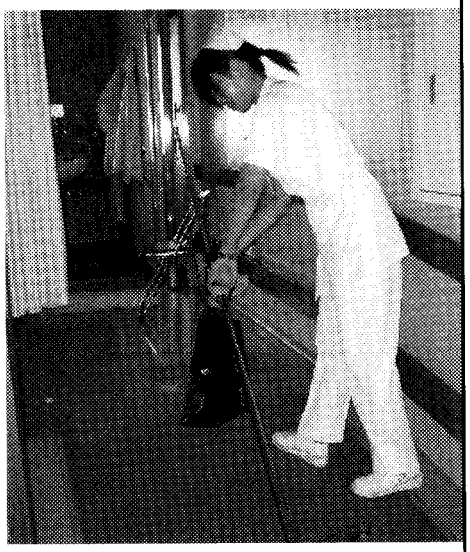


理解力の低下が見られ、不明言動や同じことを繰り返していた。患者は、二日前から院内歩行可能になり、自由に歩行していた。ふらつき、つまずきは見られなかった。患者の独り言が激しいこと、また「タバコが吸いたい」などの発言があったため、離院予防で患者の病室のドアは閉めていた。

午前1:40、ドスンという音で看護師や訪室すると、床に倒れていた。ベッド柵は上がっていたので、柵を飛び越えてベッドから転落したものと考えられる。右肘を打撲。ベッドから転落現場までの距離は1.5m程。

廊下歩行中の転倒事例



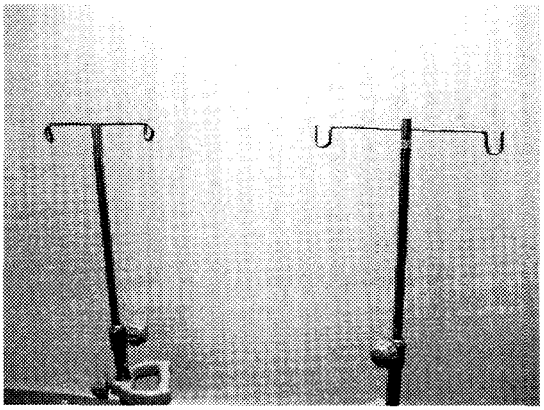


- 点滴スタンドを杖代わりに使っている。
- 入浴している知人の様子を見に行こうとして、廊下から浴室への床段差に点滴スタンドが引っかかり転倒した。

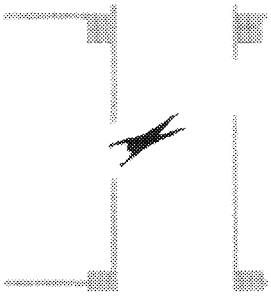
点滴スタンド

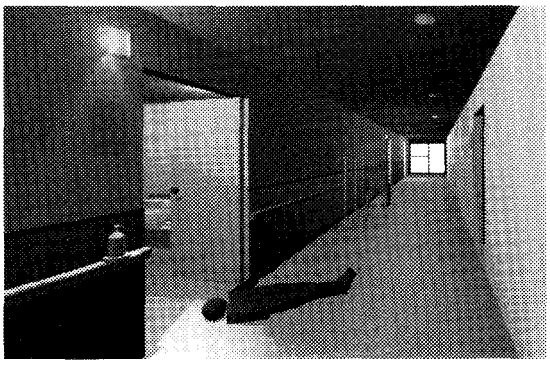
点滴をしている患者は、点滴スタンドを杖代わりに使うことが多い

フックがキュービクルカーテンの網の目に引っかかり転倒することがある。



早朝の病棟廊下での転倒事例

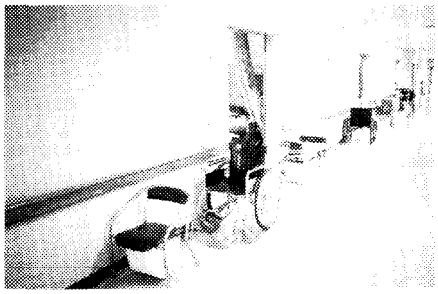


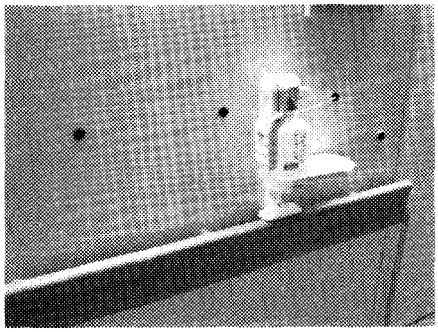


午前5：25頃、ドスンという音が聞こえたためかけつけると、病室入り口付近の廊下で仰向けに倒れているのを発見。ナースの呼びかけにも答えられず立つことも出来ないため、ナースが抱えてベッドへ移動。本人は倒れたことを全く覚えていないため、どの様な経緯で転倒したかは不明だが、トイレに行こうと歩き出したとたんに意識を消失し倒れたと考えられる。

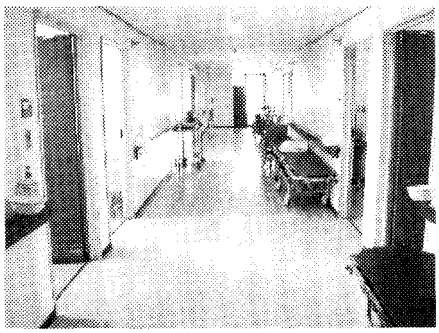
病棟廊下の状況　-障害物だらけ…

手すりが連続していない



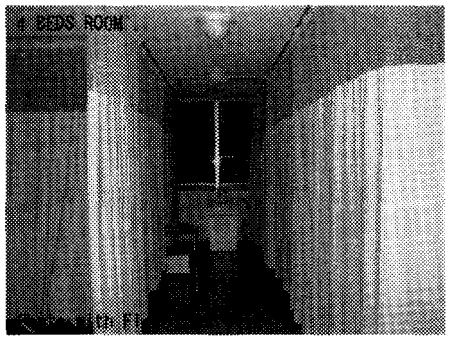


手すりに手指消毒液を設置している



廊下に多くの物品があふれ出している

Ward Environment after Dark



夜間、真っ暗でないと眠れない等の患者意見により、照明をすべて消灯している病院が少なくない